



視覚文化連続講座シリーズ6 (2025年度)

無病息災

視覚文化

(全8回)

と

- 1 8/23 病・栄養・衛生
土曜日
—医薬品広告のメッセージ
佐藤守弘 同志社大学文学部美学芸術学科教授
- 2 9/20 馬琴、孫の疱瘡とたたかう
土曜日
—疱瘡絵と赤絵の使い方
岸文和 同志社大学名誉教授、きょうと視覚文化振興財団理事
- 3 10/18 水墨画の見どころ
土曜日
—筆墨技法の病状と治療法
太田孝彦 同志社大学名誉教授
- 4 11/15 書における病と健康
土曜日
—文字のかたちに何を見るのか
根來孝明 さかい利晶の杜学芸員
- 5 12/20 美術をとおしてみる
土曜日
瑞祥への願い
加藤祥平 徳川美術館学芸員
- 2026
6 1/17 酒とご飯と健康と
土曜日
—《酒飯論絵巻》を手がかりに
並木誠士 京都工芸繊維大学美術工芸資料館特定教授
- 2026
7 2/21 《病草紙》と六道思想
土曜日
—浄土への憧れ
加須屋誠 京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員
- 2026
8 3/21 《病草紙》と『医心方』
土曜日
—現代医学から平安時代の健康・病気観を読む
東あかね 京都産業大学保健管理センター長、京都府立大学名誉教授

開講時間 14:00~15:30
(質疑応答で30分ほど延長される場合があります)

会場 同志社大学今出川校地寧静館 N36 教室
京都市上京区今出川通烏丸東入

定員 100名 (随時受付)

受講料 全8回 8,000円 (税込)
『須田記念 視覚の現場』2冊 (春季号と秋季号) 進呈
※2024年度に受講していただいた方は、全8回7,000円(税込)にさせていただきます。
※通年受講者とは別に、1回毎の聴講者を受け付けます。1講座(税込1,100円)のみご希望の方は、事務局までお問合せください。

申込方法 財団ホームページに記載の「受講申し込みフォーム」か「お問合せフォーム」に必要事項をご記入のうえ事務局まで送信してください。また、ファックス(075-320-2582)でもお受けします。

お問合せ 公益財団法人きょうと視覚文化振興財団事務局
〒607-8154 京都市山科区東野門口町13-1-329 TEL:075-748-8232
FAX:075-320-2582 Email: info@kyoto-shikakubunka.com
Hp:https://kyoto-shikakubunka.com

主催
公益財団法人
きょうと視覚文化
振興財団

無病息災と視覚文化

「無病息災」とは、病気もせず、健康であること。このことは、洋の東西を問わず、生老病死を宿命とする人間にとって最大の関心事です。本シリーズでは、日本(東洋)の視覚文化である絵巻や版画、新聞広告、衣装や調度の模様、また「書画」が、病気や健康とどのようにかかわってきたのかについて、それぞれの領域の専門家をお招きして、具体的に分かりやすく語っていただくことにします。思いがけない発見があるはずです。奮ってご参加下さい。

1 病・栄養・衛生—医薬品広告のメッセージ

- 内容: ○医薬品広告:病と健康のレトリック
○栄養と衛生:「生政治」の近代
○健脳丸のメッセージ:新たな病の構築
○戦後の医薬品広告:『プレスアルト』資料から

講師: 佐藤守弘

写真を中心とした視覚的メディアの歴史や理論を近現代日本をフィールドとして研究。単著に『トポグラフィの日本近代—江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』(2011年)。現在、2冊目の単著『写真はなにをしてきたのか—オブジェクト=イメージの近代(仮)』の出版準備中。



5 美術をとおしてみる瑞祥への願い

- 内容: ○絵画に描かれた疫病
○吉祥の図像
○武家の年中行事に込められた願い

講師: 加藤祥平

1986年愛知県生まれ。京都大学大学院文学研究科修士課程修了。日本近世絵画史・茶道史を研究。「唐絵—尾張徳川家の中国絵画」(徳川美術館)、「名物—由緒正しき宝物」(同前)などの展覧会を担当。共著に『「戯画図巻」の世界: 競う神仏、遊ぶ賢人」(KADOKAWA)など。



2 馬琴、孫の疱瘡とたたかう—疱瘡絵と赤絵の使い方

- 内容: ○曲亭馬琴と家族
○疱瘡という疫病
○絵草紙屋と絵屋
○神像と赤絵

講師: 岸文和

1950年奈良生まれ。近畿大学助教授を経て、2020年まで同志社大学教授。博士(文学)。専門は近世・近代の庶民的・大衆的メディアの芸術学・視覚文化論。著書に『絵画行為論: 浮世絵のプラグマティクス』(醍醐書房)、『江戸の遠近法: 浮世絵の視覚』(勁草書房)など。



6 酒とご飯と健康と—《酒飯論絵巻》を手がかりに

- 内容: ○酒飯論絵巻の概要
○酒飯論絵巻の美術史上の位置づけ
○酒飯論絵巻にみる飲食と健康・不健康

なみきせいし
講師: 並木誠士

専門は日本美術史・美術館学。徳川美術館学芸員、京都大学助手、京都造形芸術大学助教授、放送大学教授、京都工芸繊維大学大学院教授を経て、京都工芸繊維大学美術工芸資料館特定教授、2008年より同大学美術工芸資料館館長として、展覧会の企画をつづける。



3 水墨画の見どころ—筆墨技法の病状と治療法

- 内容: ○水墨画と着色画
○筆墨技法の症状
○郭熙筆《早春図》の例
○病状の治療法

講師: 太田孝彦

兵庫県生まれ。京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻退学。博士(文学)。帝塚山学院大学文学部教授を経て、同志社大学文学部・同大学院教授。2013年退職。専門は日本美術史。室町時代において中国の水墨画がどのように受容されたかについて研究しています。



7 《病草紙》と六道思想—浄土への憧れ

- 内容: ○六道絵巻としての《病草紙》
○この世とあの世の視覚イメージ
○現世安穩(げんせあんのん)・後生善処(ごしょうぜんじょ)

かすやまこと
講師: 加須屋 誠

1960年東京生まれ。博士(文学)。帝塚山学院大学准教授〜奈良女子大学教授を経て、現在は京都市立芸術大学客員研究員。専門は日本仏教絵画史。著書に『生老病死の図像学』(筑摩選書)、『地獄めぐり』(講談社現代新書)、『完本六道絵巻』(中央公論美術出版)など。



4 書における病と健康—文字のかたちに見るのか

- 内容: ○点画における「病」
○文字に見る「骨」と「肉」
○書における永遠の「健康」

ねごろたかあき
講師: 根来孝明

1987年堺市生まれ。同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻退学。博士(芸術学)。堺市博物館、さかい利晶の社「千利休茶の湯館」担当学芸員。専門は中国/日本の書道史。書の魅力をどのように語れば多くの人に伝えられるか、展示や講座を通して、日々模索中。



8 《病草紙》と『医心方』—現代医学から平安時代の健康・病気観を読む

- 内容: ○平安時代の絵巻 病草紙を令和にみる
○平安時代の医学書 医心方をよむ
○からだ、こころ、社会の病と健康
○これからのあなたと社会の健康をデザインする

ひがし
講師: 東あかね

1955年絵描きの家に誕生。「食」からの健康増進を実践、教育・研究中の公衆衛生医。京都府立医科大学卒業。京都府立医科大学公衆衛生学教室助手、京都府園部保健所長、京都府立大学教授を経て、2021年より現職。編著に『健康管理概論』(講談社)



公益財団法人きょうと視覚文化振興財団

本財団は、京都の洋画家・須田国太郎(1891-1961)のご子息・須田寛氏から、その遺産を須田国太郎が目指した日本の美術振興にあててほしいとの申し出があり、2019年11月、美術研究者を中心に発足しました。その後、2022年8月には公益財団法人に移行し、機関誌の発行、調査研究、連続講座やワークショップの開催、展覧会支援、展覧会企画などの活動を行っています。これらの活動に共鳴し、サポーターとして支援して頂ける会員(友の会会員/フォーラム会員/特別会員)を募集しています。

詳細は財団ホームページをご覧ください ▶ <https://kyoto-shikakubunka.com>